

# あくしゅ

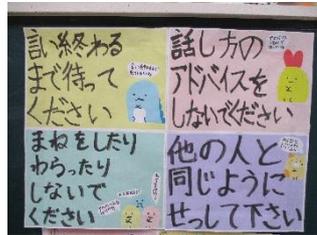


令和7年12月

## 吃音・難聴 グループ学習会 を行いました！

( 「注文に時間がかかるカフェ & 話が見えるカフェ」 + 発表 )

10月末に「グループ学習会」を行いました。前半は、【カフェ】を行いました。昨年度に続き、今年度も「注文に時間がかかるカフェ&話が見えるカフェ」と称して、吃音や難聴についてお客さんに啓発活動を行いました。合同で行ったことで、吃音や難聴についてお互いに理解し合うことができました。



今回も、三ヶ島小の職員をお招きしました。当日、子どもたちは、手作りのハロウィンのミニ仮装をして、高学年と低学年がグループを組み接客に挑戦したり、お客さんとして注文を経験したりして、協力して楽しく過ごすことができました！

### 【注文に時間がかかるカフェ】とは・・・

「吃音があってもカフェで働きたい。」そんな若者を応援するカフェです。接客への憧れはあっても吃音を理由にあきらめていた人は多くいます。「カフェを通じて吃音への理解を深めてもらい、不安や悩みを抱える若者が接客業を通して自信を持ち、幸せに生きられる社会を目指したい。」という思いで、全国で出張開催しているカフェです。

## プログラム

### 1. はじめの会

- ①はじめのことば
- ②じこしょうかい〈学校・学年・名前・作ったもの〉
- ③めあての発表

「いろいろな人と なかよく なろう」

「自分(じぶん)の役割(やくわり)を やりきろう」

### 2. カフェタイム

### 3. 発表タイム

- ①オリジナル朗読「へんしんトンネル」
- ②朗読劇「3人の吃音物語 ～私は私のままで～」

### 4. おわりの会

- ①かんそう発表
- ②おわりのことば



発表タイムでは、2つの発表をしました。1つ目は、オリジナル朗読「へんしんトンネル」。実際にある絵本をアレンジして、オリジナルを作成し、ペープサートのようにして発表しました。2つ目は、朗読劇『3人の吃音物語 ～私は私のままで～』を演じました。3人の高学年児童が、今までの自分の経験を出し合い、担当者と共に話の内容を考えました。始めは、吃音に対して不安感を持っていた子が「きこえ・ことばの教室」に通い、心の「モヤモヤ」が晴れ、「スッキリ」した気持ちになり、日常生活で【私のまま】過ごせるようになったというお話です。そして、最後は主人公役を務めた3人が、「ここからはフィクションではありません！」と笑顔で登場し、実際の学校生活での活躍を伝え、「やりたいことは何でもできる！」と言って終わるお話でした。

準備では、啓発リーフレットやメニュー表、チケット等1人1つ作ったり、当日は一人一役の進行を担当したりして、全員の力を合わせ、会を成功させることができました！



### ☆子どもたちの感想(抜粋)☆

- ぼくは、カフェのチケットを作りました。作るのはとても楽しかったです。カフェでは自分が作ったチケットが使われてうれしかったです。店員は、ちゃんと話せるかなと思っていましたが、けっこうしゃべれました。お客さんは、注文したり、友だちとゲームで遊んだりしたから楽しかったです。初めて会った子どもも仲良くなれました。げきでは、吃音は悪いことじゃないんだなと思いました。吃音のことを、自分もまわりの子ども知ることが大切だと思いました。
- げきは、一度もみんなで練習できなかったけど、無事に成功してよかった。カフェは、難聴の子といっぱいしゃべれてよかった。げきで、せりふを言う時は、現実で言った時のことを思い出しながら言った。このげきで、吃音を知らない人にも分かってもらうことができた。モヤモヤの気持ちを理解してもらうことができた。終わってほっとした。
- 初めてげきをやってみて、先生やみんなの前できんちょうしたけど、上手に演技することができました。げきでは、「もやもや」や「すっきり」など、気持ちのことも表現できてよかったです。自分たちがしてきたことや、自分たちの気持ちを、みんながそれぞれの役になってえんじてくれてうれしかったです。それが、お客さんにも伝わったと思います。みんなと協力して、最高なげきを見せることができました。

### ☆保護者の感想(抜粋)☆

- カフェタイム、音読劇を通して、とても勉強になりました。子ども自身が生きていく過程で、吃音や難聴のことを周りの人に知ってもらうこと、そのためには説明ができるようにすることが大切だと痛感しました。先生方が子どもたちと作られた丁寧な台本は、成長と共に我が子を支えてくれる宝物です。  
学習会の朗読劇の最後に、高学年のお兄さんお姉さんが、マイク無しの大きい声で、「僕は応援団！」「私も応援団！」「僕は応援団長！」「やりたいことは何でもできる！！」と3人で力強くガッツポーズをしたところで涙が出ました。すがすがしい表情と力強さは、きっとたくさん努力されてきたのでしょう。それを支えてこられた保護者の方と先生方に感動しました。このような機会をいただいて、感謝でいっぱいです。ありがとうございました。
- 今回の朗読劇は、6年間「きこえ・ことばの教室」に通ってきた集大成であったと思います。子どもたちが、自分の経験をもとに話し合いながら作り上げ、吃音が抱える問題、それに向き合い学んできたこと、そして今の自分をしっかり表現できていたと思います。通級は大変だけど、それ以上に得られることがあるので、親子で頑張っていることを、いろいろ悩んでいる人にしてほしいと思います。カフェは、難しいと思いますが、担任の先生を招待できたら、とてもいいのにな・・・と思っています。先生方の学びにもつながると思います。